

# 診療最前線

## ペインクリニック（痛みの治療）外来

ペインクリニック外来では、痛みに関連する多くの疾患に対して治療を行います。治療目的は、①痛み・しびれ・血行障害などの症状を軽減させる、あるいは完治させる ②原因となる疾患の治りを早くする ③日常生活の質を高める（身の回りのこと、家事、仕事や農作業が楽にできる） ④症状の進行・悪化を防ぐ（特に冬季）などが挙げられます。

### I. 神経ブロック治療

最も多く用いられる治療方法で、痛みの原因となっている神経の近くに局所麻酔薬や炎症を抑える薬を注入します。痛みを抑えるだけでなく、局所の血流改善効果があります。神経ブロック治療にはいくつ種類があるため、痛みの部位や症状により適切に使い分けられます。通常は週



図1 硬膜外ブロック

1回の通院で治療を開始して、症状が改善すれば間隔を空けていきます。

#### 1. 硬膜外ブロック（図1）

痛みを感じる神経が脊髄神経から枝分かれする付け根の部分の近くに、直接薬剤を注入します。くび・胸・腰のどこでも、痛みの場所に応じて治療を行うことができます（背中側からの注射）。

#### 硬膜外ブロックの適応疾患

- 腰・下肢の痛み・しびれや歩行障害（腰椎椎間板ヘルニア・腰部脊柱管狭窄症・腰椎すべり症・腰椎圧迫骨折・骨粗しょう症など）
- 带状疱疹・带状疱疹後神経痛（くびから下）
- 手足の先の血行障害・壊死（閉塞性動脈硬化症・バージャー病）
- 糖尿病性神経障害
- くび・肩・上肢の痛み・しびれ（頸椎椎間板ヘルニア・頸髄症・ムチ打ち症）

など

#### 2. 星状神経節ブロック（図2）

頭部・くび・上肢および胸部の血流を改善させる治療で、くびの前からの注射です。痛みは神経には直接作用しませんが、血流改善によって局所の痛みを改善させるだけでなく、全身のいろいろな症状を改善させます。

#### 星状神経節ブロックの適応疾患

- 頭部と顔の神経痛（三叉神経痛・頭痛・顔面痛）
- 带状疱疹・带状疱疹後神経痛（くびから上）
- 頸椎椎間板ヘルニア・頸髄症
- ムチ打ち・自律神経失調症
- 花粉症

など



図2 星状神経節ブロック

#### 3. 局所ブロック

痛みを感じる末梢神経の枝や、痛い場所の筋肉・関節の近くに、薬剤を注入します（トリガーポイント注射―図3、仙腸関節神経枝・肋間神経・大後頭神経・肩甲上神経ブロックなど）。

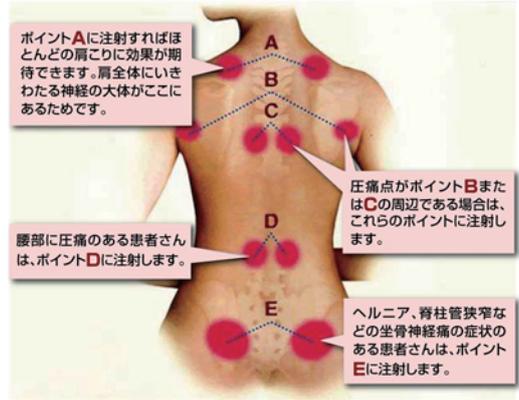


図3 トリガーポイント注射

## Ⅱ. 点滴療法

薬の内服や他の持病によりブロック治療を行うことが難しい患者さんに対して、次の手段として行われます。鎮痛薬、血管拡張薬、ビタミン薬、抗炎症薬などを組み合わせ、約1時間の点滴を行います。他に持病があつて種々の薬剤を使用しても、安全に継続して治療することができます。

## Ⅲ. 薬物療法

ブロック・点滴治療と併用して、消炎鎮痛薬・血流改善薬・末梢神経障害治療薬・胃粘膜保

護薬・抗てんかん薬、抗うつ薬、精神安定薬、場合によっては麻薬性鎮痛薬を使用します。内服だけでなく、座薬・湿布薬・外用薬なども併用します。最近の試みとして、痛みの部位への局所麻酔薬（リドカイン）含有クリーム塗布を行っています。他の治療と併用して、一時的に強い痛みを軽減させる効果があります。

## Ⅳ. まとめ

当科では主に、Ⅰ（＋Ⅲ）あるいはⅡ（＋Ⅲ）の治療を行います。当院は整形外科の患者さんが非常に多く、その関連疾患の神経ブロックをこれまで多く行ってきました。しかし最近では帯状疱疹後神経痛や三叉神経痛など、それ以外の患者さんの比率が高くなってきています。日本ペインクリニック学会認定施設として、患者さんに十分説明を行った上でガイドラインに沿った安全・確実な治療を行います。

（麻酔科統括部長 鬼頭 剛）